

印刷会社(先進諸国)は業態変革を

2011年まで パッケージ、ラベル、DMが最も成長

NPES首脳が記者会見

全米印刷機材業者連合会(NPES)の記者会見がI.G.A.S.2007会期中の9月22日に東京ビッグサイト会議棟609号室で開催された。NPESからトーマス・サンジョオ会長とライリアム・K・スマイス副社長が出席、「世界の印刷産業の展望」について、調査報告書に基づいて説明した。それによれば、①インターネットは印刷が最初に迎えた統合・代替メディア、②先進諸国では紙印刷物は低下傾向にあるので、印刷会社は変化していかなければならない、③2011年までに最も成長する印刷製品はDMとパッケージ・ラベルである、④2011年の印刷出荷額は北米がトップ、次いで日本、中国という順位、中国は2006年にドイツを抜いて3位、アジア地域ではインドが今後、高成長していく、など説明した。そして、4大国際展のひとつ、P.R.I.N.T.09が2009年9月11〜16日の6日間、シカゴのマコミックプレイスで開催されることを明らかにした。

会見ではサンジョオ会長「作業である。また、ユーザー長があいさつ。NPESは機材供給業者を幅広く網羅し、400社以上で構成されている。本部はワシントンDC。主な業務は各種情報の提供や内外の標準化」

「団体のPIA/GAIT/NPAと印刷展示会の運営会社、グラフィック・アーツ・ショー・カンパニー(GASC)を設立、国際展のP.R.I.N.T.国内展のGraphicexpoなどを主催、運営している」と述べた。

次にスマイス副社長が「世界の印刷産業の展望」と題し、NPESの調査研究機関「PRIMIR」の調査報告書「2006〜2011年の世界の印刷市場」の概要を明らかにした。

調査報告書は調査が英国のバイラ(Pirae)インターナショナルによって3回実施されている。

最初の報告書は、世界の印刷市場の98%を占める51ヶ国の市場動向を分析、2番目の報告書は、印刷設備、紙および消費品の市場を識別した。最後の報告書は、2つの調査結果をもとに、急成長し発展している11の市場を識別、その特徴を明確にし、2011年までの世界を予想、あわせて装置、紙、消耗品市場を含めたそれぞれの印刷市場の予想を立てている。

印刷を取り巻く市場環境として経済、社会、人口動向とビジネス時間との観



左に於ける印刷は長相に落ち込む。先進国の印刷会社は(生き残り)を図るなか、変化しなげればならない。世界の地域別印刷市場動向は、2006年では、①北米 30・1%、②西欧 29・8%、③アジア 28・6%とアジア地域がトップに躍り出る。

争い、フックターからインターネットを「印刷」にとって初めての本場の競争相手」として捉え、印刷の課題として次の点を挙げている。

- ・ 安当性、パーソナライズ/パーソニング、品質/効果
- ・ 便りさを求めたパッケージの開発
- ・ 付加サービス
- ・ ハイブリッド・システム/マルチ・ベンダー

また、「印刷市場の将来の発展」としては次のようなシナリオを述べている。

- ・ 印刷の成長は本場に落ち込む
- ・ 発展途上国の市場は比較的良い
- ・ パッケージとラベルが非常に重要
- ・ 先進国では紙へのイン

③アジア 27・6%
①アジア 30・1%
②北米 29・8%
③西欧 28・6%

④ドイツ ⑤英国

主要国の出荷金額ベースの印刷市場の順位は、2006〜2011年間で①北米 ②日本 ③中国 ④ドイツ ⑤英国

の順位は変わらない。2006年のB.R.I.C.S諸国のうちインドは12位、ブラジルの11位だが、2011年にはカナダ、スペインを追い越してインドが8位、ブラジルが9位となる。

印刷製品の北米印刷市場における2006〜2011年における成長率は、ダイレクトメールが14・1%、チラシが13・2%、ラベル

が12・3%、パッケージングが11・2%、雑誌が10・1%の順位。パッケージングの内訳は軟包装が15・2%、カートンが12・6%、段ボールが9・1%である。また、世界の印刷製品の市場は次のとおり。

- ・ パッケージが最大の成長分野で、印刷されたパッケージの市場は2011年までに約20%伸び、2010億ドルに達すると予想される。
- ・ 広告印刷の分野、とくにダイレクトメールやチラシなどが印刷の成長市場で大きく伸びる。
- ・ ビジネスフォーム、カタログ、電話帳はインターネットにシニアを奪われ、とくに先進国では伸び悩む印刷産業の発展として次の項目を挙げています。
- ・ クロバーリレーション
- ・ 海外生産
- ・ ハイブリッド技術の発展

「先進国市場における付加サービスと商業印刷の状況変化」

- ・ 合併やM&Aによる印刷会社数の減少
- ・ 印刷マネージメントサービスの成長
- ・ スペシャルリストのメーカーに事業機会

まとめとして、次のように要約されている。

- ・ 世界的な規模では、印刷は生き残る
- ・ 今でも北米は世界最大の市場
- ・ 成長という観点からは、先進国から急成長している地域に移っている。
- ・ 先進国で落ち込んでいく印刷製品も、急成長している世界では繁栄。
- ・ 生産会社は人口が多く、急速に成長している市場を捜す必要がある。
- ・ 加えて米国の印刷装置の出荷状況も説明された。
- ・ 2006年における米国印刷機材の成長はオフセット印刷機の出荷額は8億1524万ドルに対し、オフセット輪転機の出荷額は6億4992万ドルであり、1996年からの出荷額推移をみると、枚数60%、輪転40%の比率となっている。
- ・ プリアレス分野では、ブリートセッター(金版版)の出荷額は1999年頃から成長軌道に乗り、2006年では1億4711万ドルに達している。他方、イメージセッターは1999年から減退傾向にあり、2006年では2億95万ドルまで低下している。
- ・ CTP金版版は1999年の2914万ドルから年々増加し、2006年には250倍以上の6億5779万ドルに達している。
- ・ 最後に4大国際展のひとつ、P.R.I.N.T.が2009年9月11〜16日の6日間、シカゴのマコミックプレイスで開催されることが明らかにされた。

「紙幣印刷の現状・動向」学ぶ

偽造動向と対抗策など

I.G.A.S.2007特別講義として、9月22日、東京ビッグサイト・レセプションホールAで行われ、元大蔵省印刷局業務部長、財団法人印刷製版協会事務局長で紙幣研究家の植村博氏が「世界の紙幣印刷の現状とその動向」について語った。

植村氏は中国に始まる紙幣の歴史を解説し、「紙幣は世界で初めて現在の中国四川省で組合が担保した形で誕生したが、たちまち通貨インフレ



講演する植村氏

当初、イギリス本国の銀貨を使用していたが、本国からの送金が途絶えがちで経済運営に支障をきたしたため、植民地政府がそれぞれ独自の大陸紙幣を印刷し、紙幣の裏面には偽造防止のため木の葉の葉脈の図柄を印刷していたなど、様々な紙幣にまつわる歴史を解説した。

さらに海外の事例として、ユーロ紙幣では、それまで一般的であった人物肖像画に代わり、特定の国や地域を連想させない建築物などのデザインが採用されているなど各国の紙幣事情を紹介。

そして、偽造防止対策の強化、常に新しい偽造防止対策の発明、過度なインターバルでの改刷偽造防止の

ポイントとして述べた。

講演会では、身近でありながら普段知る機会のない紙幣を巡るさまざまな情報・エピソードが紹介され、聴衆の強い関心を呼んでいた。